

佳作

八子こつものがたりをみて

茨城県 石岡市立柿岡小学校二年 塚田 ほのか

わたしは、むかしパパが見て、とてもかんどうしたというビデオを見ました。それは、「八子こつものがたり」というお話です。

八子こつという犬は、生まれてすぐにでん車にのって遠いところへもらわれていきました。でん車の中では、犬は一ぴきだったからとてもさびしそうでした。えきについた時は、さむくて丸まっていた。もらわれるうちに行った時にも人間をこわがって丸まっていたままでした。えさなどをもらっていないうちになれてきて、大きくなってくと、かいぬしのお父さんをえきまでおくって行き、帰って来る時間には、むかえに行きました。雨の日もさむいゆきの日も、あつい日も、毎日毎日つづきました。ある日のあさ、いつもどおりにお父さんをおくって行きましたがむかえに行っても帰って来ませんでした。そのままうちへ帰ったらお父さんのしゃんがおいてあり、人もいっばい来ていました。八子こつは、お父さんがしんだとは知りませんでした。だから八子こつは、おくりむかえをやめませんでした。そのうちに、お父さんのかぞくは、ひっこすことになり、八子こつは、べつのうちにもらわれていきました。その後もえきへかよいました。なんんか、かいぬしがかわり、とうとう八子こつのすむところがなくなりました。

ある日、いつものようにえきへむかえに行くとき、毎日その八子こつのすがたを見ていた新聞やさんがしゃんをとって新聞にのせました。それを見て、さいしよのかいぬしのお母さんがでん車にのってあいに来ました。そして、八子こつとしばらくぶりにあい、ちかくのりよかんにおねがいして八子こつと、とめてもらいました。でも、そのよるに八子こつは、どこかへ行ってしまいました。お母さんは、八子こつをさがし回りましたが、と

とうつ見つかりませんでした。

その後、八子こつは、とうとうえきの前でしんでしまいました。

わたしは、パパに言われて見はじめたときは、つまらないなと思っていましたが、と中からしゅう中して見ていくうちに、言ばのわからない八子こつが、毎日おくりむかえをしているところを見てかわいそうになり、なみだがとまりませんでした。うちにも犬がいますが、八子こつのかぞくのようにやさしくそだててあげると八子こつみたいによさしい犬になれるからうちの犬もやさしくそだててあげたいなと思いました。

